

「石仏建立200周年記念」活動の報告

1825年の唐櫃古道石仏建立から200周年に臨み、石仏周辺の整備活動に取り組みました。2024年～25年の活動の概要をまとめ、次の担い手に継承するために今後の課題を併せて報告したい。

(1) 活動の実績まとめ

①石仏周辺の清掃・整備活動

石仏整備活動は、ほぼ月1回5名程度(延べ120名)が参加して実施した。石仏群33体と番外4体を対象に、全域の石仏群または地域を特定して取り組んだ。まず、石仏周辺に繁茂するササを刈り取り、石仏を遮蔽する倒木等があれば処理した。周辺の住民がササ刈りを好評して、進んで石仏の清掃や献花をされる動向も生じている。

②石仏参道の整備活動

石仏はハイキング道路際に設置されたものは半数ほどで、半数は8m～20mの斜面の上に設置されている。地盤が安定した位置を選定して設置されたと思われる。この道筋を石仏参道とみなして、ササ刈りや雑草の除去、落葉の清掃などを行った。

第33番、第30番、第28番、番外4、第25番、第24番、第21番、第20番、第19番、第17番、第13番、第12番、第11番、第10番の14体、九体仏、三体仏

③石仏(標柱)・標識の設置

大半の石仏は200年の星霜を経て、刻字が摩耗して判読不能になっている。2021年に灘区内の6体について、約90cmの標柱を設置した。環境省から申請の不備を指摘されて設置は中断した。2024年に上唐櫃林産農業協同組合から私有地への立ち入りを承認していただいたので、北区内の石仏に約30cmの小型標識を設置した。標識には石仏番号、札所名称、西国三十三カ所巡りを表示している。石仏の由来を確認できたという評判を得ている。

④石仏参道の丸木階段設置

石仏の参道は傾斜があり距離が長いので、訪れないで見過ごす人が多い。登りにくい参道には土砂流出の防止も兼ねて丸木の階段を設置した。

第28番(3階段)、番外4(3階段)、第24番(3階段)、第21番(1階段)、第20番(4階段)、第19番(2階段)、第17番(3階段)、第10番(8階段)、シュライン北分岐(6階段)

⑤整備を断念または中止した案件

整備について地権者の了解を得られなかった2件(第31番、32番)や、整備作業が困難なため中断した2件(第21番、第14番)もある

(2) 今後の課題の提起

①日常的な清掃・整備

石仏と周辺はササや雑草が生い茂るので、半年に1回程度の除草が望ましい。石仏の存在と保存を広報して清掃整備のガイド資料を配布し、一般の参観者やハイカーに協力を求めたい。

②定期的な整備活動

石仏の参道の清掃整備として、はササ刈りや落葉の除去などを全域で年1回程度実施したい。当会の「歴史クリーンハイク」(年6回開催予定)のような行事を開催すれば、可能になる。定期点検整備の際に、集中的な作業の課題を決めて遂行する。

③本格的な整備・修復事業の提案

点検整備では遂行できない困難な作業や、専門業者に委託する石ガンの修復作業などもある。これらは、費用も発生するので、3年程度をかけた修復事業を運営することが考えられる。作業の種類は複数あり、まず石仏・石ガンの分解・組み立て直しがある。これには、軽度な組み立て直し(第25番、第23番、第18番、第17番、第16番、第12番、第10番、番外2の8件)から、重度の分解・組み立て直し(第20番、第19番、第13番、第9番の4件)まである。次に石ガン・石祠が損失しているものや木製で代用しているもの(第26番、番外3の2件)がある。これらは、石ガン・祠の石材を調達して新設する必要がある。

また、参道の登り口が急傾斜で作業を中断した(第21番、第14番)の2件については、丸木の足場を組み立てて処置したい。これと重度の分解・組み立て直し、石ガン・祠の新設の8件を対象に修復事業を運営する。

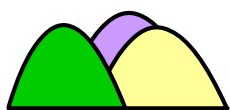
④保全活動を担う団体と運営の提案

石仏の保全・修復事業を遂行する一案として、神戸市の「歴史文化遺産」の申請を検討したい。継続的に整備をする市民団体を設立すれば申請可能で、歴史文化遺産の評価と広報、助成金を得ることができる。もちろん、地権者の了解を得る必要がある。

2025年12月1日

六甲山を活用する会

代表幹事 堂馬英二



六甲山を活用する会

六甲山を活用する会

Friends for Activating Life with Rokkōsan

〒657-0024 神戸市灘区楠丘町 5-3-5 ワークスタイル研究所内

TEL : 090-3288-0569 FAX : 078-843-1494

E-Mail : info@rokkosan-katsuyo.com